ブラゼルトン新生児行動評価法による日米の比較研究

高　橋　悦二郎（日本総合愛育研究所）
加　藤　忠　明（　　〃　　）

日本人とアメリカ人との相違は従来より種々指摘されているが，生後１～４日目の新生児を比較検討した。日本と米国よりそれぞれ２０人ずつ，男児１０人女児１０人matched date を選びだし，ブラゼルトン新生児行動評価法により比較した。ガラガラやベルの音に対して新生児が慣れて反応しにくくなる現象を調べる項目では，米人の方がそれらの音に慣れやすかった。ガラガラの音にどの程度ふりむいて反応するか，また，布を新生児の顔にかぶせる検査など，周囲の状況に対する反応度を調べる検査では，日本人の方がより敏感に反応した，皮膚色の変化は米人の方がより明瞭であった。微笑は，米人では一度も観察されなかったが，日本人では時に観察された。以上の検査項目以外には，日米で有意差のあった項目は見出されなかった。